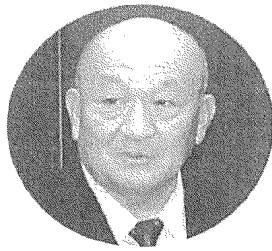


マネジメント最適化へ新ビジョン策定

管診協

国交省に活動方針を説明



山崎会長

管路診断コンサルタント協会（管診協）は2月20日、都内で「協会活動説明会」を開いた。山崎義広・会長（三水コンサルタント社長）はじめ協会幹部と、国土交通省下水道部の松原誠・下水道事業課長、吉澤正宏・同課事業マネジメント推進室

長が出席。令和元年度活動状況と、新たに策定した中期ビジョンの説明に対し、同部からは、令和2年度下水道関係予算の概要や、施策・制度の最近の動向について情報提供があり、両者の意見交換の時間も設けられた。開会にあたり山崎会長は、「下水道管路の円滑なマネジメントに貢献する当協会の活動にご理解をいただけるよう、有意義な会としたい」とあいさつした。

同協会は、下水道を主体とする管路構造物の計画的な改築・修繕に関するコンサルティング業務の確立に向け、調査・研究や研修事業などを行っている。

今年度の主な活動について、長島隆幸・事務局長は、技術講習会や研修会を全国の主要都市で開催し、協会員をはじめ地方公共団体や関係企業から各回100人を超える参加者があり、日本下水道事業団研修センターの講

習会などに協会員の講師を派遣したと報告した。

「新中期ビジョン2020（目標年次2019年9月～2024年8月）」について、永井周・理事は、協会員を対象に実施したアンケートに基づき改訂を行った経緯や、目標として『下水道管路アセットマネジメントの最適化』を掲げ、「会員サービスの向上」、「管路診断技術の進化への貢献」、「異業種・産学との連携」を活動の3本

柱とすると説明。具体的には、地元会員会社の連携促進や、「実務者視点」による技術の研鑽と向上、新技術の紹介や評

価方法の充実、異業種との連携による「循環のみち下水道」に向けた新たなニーズへの対応などを図っていくとした。



意見交換の時間も設けられた